

2. 『鳥飼地域のまちづくりについて』

令和2年第3回10月議会一般質問 議事録

【質問 1回目】

鳥飼地域に関しましては、毎回、取り上げておりますが、鳥飼まちづくりグランドデザインを策定すべく、プロジェクトが組織化されてから、既に半年が経過しております。まずは、現在の進捗状況について、お聞かせ下さい。

【答弁 1回目】

「鳥飼まちづくりグランドデザインの進捗」についてのご質問にお答えいたします。

今年度市長公室政策推進課に専任チームを設置後、改めて、鳥飼地域の人口特性や地域特性の分析を行い、庁内関係課とは鳥飼地域における施策等の課題や対策の方向性の検討を行ってまいりました。

また、市民の方々に対して、鳥飼地域の人口特性、グランドデザイン策定の考え方等について、広報7月号でお知らせすると同時に、鳥飼地域にお住まいの方、約3,000人を対象にアンケート調査を実施し住民ニーズの把握、分析を行いました。

今後、アンケートの結果や庁内での検討内容も踏まえ、来年1月にかけて、地元懇談会を開催する予定でございます。去る10月16日に第1回目の懇談会を開催しており、人口減少、少子高齢化等に伴う地域の課題を認識・共有していただいた上で、意見交換等の場としてまいります。

【質問 2回目】

鳥飼プロジェクトの進捗状況についてお聞かせ頂きました。

先程も触れました、河川防災ステーションにつきましては、鳥飼まちづくりグランドデザインの核になると認識しておりますが、国の事業でもありますので、プロジェクトの進め方や速度感が異なることが懸念されます。そこで、改めて、河川防災ステーションの鳥飼まちづくりプロジェクトとしての位置付けと、それぞれのプロジェクトをどの様にしてシンクロさせて行くのか？お考えをお聞かせ下さい。

【答弁 2回目】

鳥飼まちづくりグランドデザイン策定に向けて必要な機能・施策を考えたとき安全・安心の観点からの「防災」の視点は不可欠でございます。従いまして、防災ステーションのグランドデザインへの位置づけは必須であると考えています。特に鳥飼地域におきましては、淀川や安威川に挟まれており、浸水リスクの非常に高い地域であることから、河川防災ステーションの整備は、グランドデザインの中の核ともなる一つの大きなプロジェクトであると考えています。

河川防災ステーションの整備に向けた検討は、グランドデザイン全体の策定のタイミングよりも先行して具体化を進める必要がありますが、鳥飼のまちづくり全体の観点から一体感をもって進めるとともに、国と連携し、適切に取り組んでまいります。

【質問 3回目】

2. 『鳥飼地域のまちづくりについて』

河川防災ステーションという大きなプロジェクトが動き始める中、鳥飼まちづくりには、課題が山積しており、複雑且つ多岐に渡る取り組みが求められます。

ランドデザイン策定に向けては、市長が先頭に立って舵取りを行い、庁内で課題や情報を共有し、一丸となって、取り組んで行かなければなりません。

そこで、現在、庁内において、課題や情報の共有をどの様に図り、議論されているのか？また、進捗状況など、市長への報告は、どの様に実施されているのか？お聞かせ下さい。

【答弁 3回目】

ランドデザインの策定は、必要な施策や機能が多岐にわたることからも、担当セクションだけで作り上げることができるものではないことは十分に認識しております。

関係課長級で組織する庁内検討委員会や、義務教育学校、子育て支援等の具体的な施策等を検討する分科会での協議・調整、また、河川防災ステーションの整備に係るプロジェクトチームとの連携、さらには、必要に応じ、部長会におきましても情報共有を図っており、3 役へも重点課題報告等の機会を通じ、進捗の報告を行うように努めております。

【質問 4回目】

是非、部局横断的に取り組み、縦と横の連携を強化頂けますよう、お願い致します。それには、鳥飼まちづくり専任チームが中枢を担い、縦串、横串を入れる必要があると私は考えます。

一方、この鳥飼まちづくりを成功させるには、地域住民の方々に主役になって頂き、理解と協力を得なければなりません。

先日、地元懇談会が開催され、機運を高めなければならない状況の中、コンサルがファシリテーターを担い、最終総括まで行っていたと聞いております。コンサルの発言には誤った認識もあり、地域住民の方から、疑問の声も上がっています。

私は、職員である専任チームメンバーがイニシアティブを取り、進めることが重要と考えていますが、改めて、コンサルの位置付けや、職員とコンサルの役割の違いについて、どの様に認識されているのか？お聞かせ下さい。

【答弁 4回目】

過日の懇談会におきましては、市職員からランドデザイン策定に向けた取組みに至った背景、目的、鳥飼地域の将来人口の課題、並びにアンケート調査結果等につきまして、説明させていただきました。その後、それらを踏まえ、地域の課題等についてご意見をいただく時間としたものです。

コンサルティング業者は、あくまでも職員が方針や方向性を決定する上での検討過程において、関連データや法令等の調査・分析などを行うことで、職員をサポートする立場にあるものです。懇談会においても、あくまでも発言が一部の方に偏らないようファシリテーターの役割と位置付けておりましたが、説明不足もあり、少し誤解があったように考えております。

【質問 5回目】

私は、鳥飼まちづくり専任チームが想いを持ってリードし、コンサルにおいても、鳥飼をもっと理解させるべきと考えます。

2. 『鳥飼地域のまちづくりについて』

先日の地元懇談会では、河川防災ステーションの話題が全く出て来なかったと聞いておりますが、特に自治連合会では、既に大きな関心事となっております。

鳥飼まちづくりグランドデザインの骨子が、今年度中に策定されるというタイトなスケジュールの中、地域住民の意見をどの様に吸い上げて行くのか？また、具体的にどの様に協議して行くのか？ お考えをお聞かせ下さい。

【答弁 5回目】

鳥飼まちづくりグランドデザイン策定に向けた地元懇談会につきましては、3回の開催を予定しており、1回目で共有していただいた課題等を踏まえ、2回目以降、より具体的にご意見やニーズをお聞かせいただく予定でございます。

河川防災ステーションの説明についてですが、地元懇談会では、グランドデザイン全体に関わる様々な課題に対して、ご意見をいただきたいと考えており、その課題に「防災」の観点がございますので、次回の懇談会では、過日の総務建設常任委員協議会で説明させていただいた内容等について、お話す予定をしております。

ただ、河川防災ステーションは、いち早く具体化の検討を進めることとなっており、その進捗に合わせ、懇談会での情報提供のみならず、別の機会・場も検討し、ご意見をいただく必要があると考えています。

【質問 6回目】

これから、具体策を練り上げるには、防災、教育、福祉や公共交通など、テーマを絞って議論する必要があります。担当所管の職員も入り込み、地域住民の方々と課題を共有し、早期に具現化すべきと考えますが、お考えをお聞かせ下さい。

【答弁 6回目】

地元懇談会におきましては、鳥飼地域の4つの小学校区から地域で活動されている自治会、民生・児童委員、青少年指導員、及び小学校PTAの方々にご参加いただいております。1回目につきましては、鳥飼地域における課題等を幅広くご意見をいただきましたが、2回目以降は、ある程度テーマを絞り、そのテーマごとに、さまざまなご意見をいただける運営を予定しております。

専任チーム以外の職員の出席ですが、専任チームの職員が、庁内検討会の下部組織である分科会で、具体的な施策の在り方等について、関係課と協議、調整しておりますので、現在のところ、各施策の所管課が出席することは予定しておりません。

【質問 7回目】

テーマ毎の議論が深掘りされますよう、しっかりとご準備頂き、参加者へは、事前にテーマのアナウンスをお願い致します。

鳥飼まちづくりは、プロジェクトチーム解散後も続きます。むしろ、グランドデザインが完成してこそ、新たな鳥飼まちづくりのスタート地点に立つという認識に立たなければなりません。

長期目線で、まちづくりを進める為にも、想いを持った地域住民の方々が参加出来る、「鳥飼まちづくり協議会」を今からでも結成し、検討を開始してはどうかと考えます。

2. 『鳥飼地域のまちづくりについて』

他市では、ランドデザイン策定時に協議会が設置されている事例も多く、地域住民からも、協議会立ち上げに向けた声も上がっている状況ですが、本市の見解をお聞かせ下さい。

【答弁 7回目】

いわゆる「まちづくり協議会」につきましては、市民一人一人がまちづくりの主役となりうるもので、市民活動支援として行政が関わりを持つことで、本市が唱える協働のまちづくりの理念にも通ずるものだと認識しております。

先進的に取り組む自治体も多数あり、市民活動支援の所管である自治振興課ともその認識を共有しております。さらに、鳥飼まちづくりランドデザインの将来の具現化への動き等も踏まえたとき、「まちづくり協議会」の位置づけは非常に有効になるとも考えられ、市としてのその在り方を検討することは、今後の課題であると認識しております。

【質問 8回目】

是非、具現化頂けますよう、お願い致します。

先日の地元懇談会においては、鳥飼地域にモノレールや地下鉄などの駅があれば、地域が発展する、河川敷の魅力をもっと引き出し、活用すべき、との意見も多く出ております。

ランドデザインは、短期的な課題解決だけでなく、夢を語り、中長期的な視点に立ってあるべき姿を実現させるには、どうするのか？という切り口で検討する必要があります。

例えば、将来的に、モノレールを淀川沿いに高槻まで延伸すれば、駅舎は避難所として活用でき、SOS避難メソッドで示す吹田への広域避難も可能となります。それには、近隣自治体との連携模索が成功の鍵となり、夢の具現化に向け、高い視座に立って真剣に検討しなければなりません。

夢やあるべき姿の実現に向け、近郊の情勢や動向についての調査も必要と考えますが、本市の見解をお聞かせ下さい。

【答弁 8回目】

鳥飼まちづくりランドデザインは、鳥飼地域の将来のまちづくりに資するものであり、長期的な視点、中短期的な視点からの検討が必要となりますが、まずは、中短期的な実現可能性のあるものを位置づけていきたいと考えております。

しかしながら、議員ご指摘のとおり、まちづくりには「夢」というものも必要でございます。ランドデザインに位置付ける施策や機能が具体化していくなかで、より長期の視点で次の展開を考えることも重要となります。

また、例えば、SOS避難メソッドを踏まえたときには、大阪府や近隣自治体との連携等も必要になってまいります。さらに、鳥飼仁和寺大橋の無料化などは、本市のまちづくりに影響を及ぼすことも想定されますので、少し長期的な視点、広域的な視点も大切に検討してまいりたいと考えております。

【質問 9回目】

鳥飼を発展させる為には、近隣自治体や民間企業との連携が必須と考えます。是非、高い視座に立って、中長期的な鳥飼のあるべき姿を描き、具体的に検討頂けますよう、要望致します。

2. 『鳥飼地域のまちづくりについて』

最後に、河川防災ステーションも含めた鳥飼まちづくりへの市長の想いをお聞かせ下さい。

【答弁 9回目】

市長答弁は、原稿無し。

【10回目】

市長答弁、有り難う御座いました。想いを理解致しました。

魅力ある鳥飼まちづくりの実現に向け、是非、全庁一丸となって、オール摂津で取り組んで頂きますよう、願ひ致します。